

# 新春のご挨拶

## 愛着と誇りにつながる

### 明るく気概あふれるまちづくりをめざして

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、旧年中はもとより、日ごろから町政運営に対しまして、格別のご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

昨年は日本で2回目のオリンピック・パラリンピック開催という記念すべき年となりました。コロナ禍での東京大会は、オリンピック・パラリンピック史上初の延期という大きなチャレンジの中での開催にもなりました。その中で、ひたむきな努力を重ねたアスリートが最高の舞台上で輝く姿、また選手を支える方々の熱く、温かい思いは、多くの人々の心に希望と勇気、そしてみらいに向かう力を与えてくれるものとなりました。

愛荘町におきましても、住民一人ひとりが明日への希望とともに、輝いていけるよう、しっかりと状況を見極めながら、引き続きワクチン接種をはじめ必要な取り組みを行っていかねばならないと考えております。

さて、昨年町においては、第2次愛荘町総合計画（前期）に基づく、町の重点戦略である「ひとづくり」、「しごとづくり」、「まちづくり」プロジェクトを強力に推進するため必要な施策に取り組みました。

中でも、ひとづくりの分野において、愛知中学校の大規模増改築工事の教室棟の完成にあわせ、町内すべての小中学校においてGIGAスクール構想のもと「1人1台端末・高速大容量通信ネットワーク」を活用したICT教育を実施しました。学力向上とともに、次代を担う子ども達がいっそう輝く、町の宝となるよう環境を整えてまいりたいと考えています。

また、まちづくりの分野においては、交通や河川を含む安全で安心な社会インフラシステムの構築など、快適でうるおいのある、やすらぎ居住環境の整備を念頭に各種施策を進めてまいりました。空き家に関しても改修補助制度を創設し、利活用の推進を図ったほか、適正管理の両面で施策に結びつけることができました。

さらにしごとづくりの分野では、コロナ禍による地域経済の低迷が課題となる中、まちの賑わいや地域活力を生み出すため、PayPayを活用したキャッシュバックキャンペーン事業の実施により、地元店舗への消費喚起や社会のデジタル化の支援にも取り組んでまいりました。

昨年も町内各字を訪問させていただき自治体ミーティングを行っておりますが、本年も、感染症対策に万全を期しつつ、住民の皆様と共に、進取の気性に富む気骨ある人づくり、愛着と誇りにつながる、明るく気概あふれるまちづくりのためにまい進してまいります。

結びにあたり、新しい年が、皆様にとりましてご健康で幸多き年となりますよう心よりお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

愛荘町長  
ありむらくにとも  
有村 国知



人推協だより

ほっと・あい 第189号

愛荘町人権教育推進協議会

問 (事務局) 教育委員会生涯学習課内 (秦荘庁舎)  
☎0749-37-8055 FAX0749-37-4192

## 人権を考える町民のつどい

人権週間の啓発活動の一環として、昨年12月16日、ハーティーセンター秦荘で「人権を考える町民のつどい」を開催しました。今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、参加を人推協の各部会員のみに制限して実施しました。ご協力ありがとうございました。

今回は、講師に関西外国語大学教授・人権教育思想研究所長の明石 一郎さんをお迎えし講演いただきました。

演題: “人権・同和問題の解決をめざして”  
～好感・共感・親近感が人権力を育む～



講演内容から

### 《人権とは》

人権・同和教育が目指す方向を一言で表現すれば「しあわせ」です。「しあわせ」には3つの定義があると思います。

1つ目は、健康であること。2つ目は、豊かであること。3つ目は、安心して安全に過ごせる地域社会があること。

この3つが人権のめざす社会ではないでしょうか。同和問題の解決も含め人権問題の解決のめざす方向は、みんなが健康で豊かで安心して安全に暮らせる地域社会をつくるのが目的であると思います。

### 《同和問題の歴史から》

「今日も机にあの子がいない」、私の同和教育はそこから始まりました。1950年代、同和地区の3人に1人が学校に行けませんでした。当時、同和教育を進めていった先生方が、同和地区の家庭を訪問し、そこで見たのが差別と貧困だったのです。そうして始まった同和教育は、その解決だけにとどまりませんでした。その問題を通して特別支援教育や男女共生教育や在日外国人教育が広まっていきました。人権教育という概念は広いのです。様々な課題が総合して人権教育になっています。しかし歴史的に見れば、その最初は、同和問題の解決でした。

### 《差別をなくすために》

差別は自然にはなくなりません。私たちの努力とみなさんの団結でなくなるのです。出会いとふれあいを豊かにもっている人ほど人権意識が高いのです。つまり出会いやふれあいがいいことは、噂や風評やデマに負けるのです。

また、自分の暮らしと重ねることも大切です。人事・他人事、そういう思いでは人権意識は染み込みません。そして出会いとふれあい、暮らしの重なり、正しく学ぶということが合わさって、必ず差別はなくなります。

最後に、いろいろな人権問題は思い込みから生まれます。思い込みにネガティブな感情がついたら偏見や差別が起こります。思い込みをなくすのは多面的な見方と豊かな経験なのです。

みなさんと共に様々な経験を積み重ね、差別のない心豊かな地域づくりをめざして「しあわせ」になりましょう。

### 参加者のアンケートから

人権研修等があると、私自身堅苦しく感じてしまうことが多かったです。「しっかり学ばないと」と肩に力が入っていましたが、親近感を感じ、気軽に興味をもって学ぶ機会を多くもつ方が大切だと気づきました。例えがわかりやすく、より理解できました。これからも自分の中の人権意識を磨いていきたいと思いました。(20歳代)

先生の間々にはさむギャグは楽しかった。私自身同和に対する差別はなくしたいと思う。何かできないかと思うし、町でそのような取り組みがあれば協力したい。

長さもちょうど良くて、飽きのこない講義でよかった。同和問題による知識を深めることができた。「ふるさとで人の値打ちが決まるでしょうか」という言葉は心に残った。(30歳代)